

乳幼児ママ・プレママの 備蓄・防災に関する意識調査 2023

【調査方法】

- 調査主体 : 株式会社 明治
調査期間 : 2023年7月21日～2023年7月24日
調査方法 : インターネットアンケート調査
調査対象 : 日本全国在住の20歳～40歳女性のうち、
第一子妊娠中の方155、末子年齢が2歳未満のお子さまをお持ちの方309
合計464

※本調査については、構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とはならない場合があります

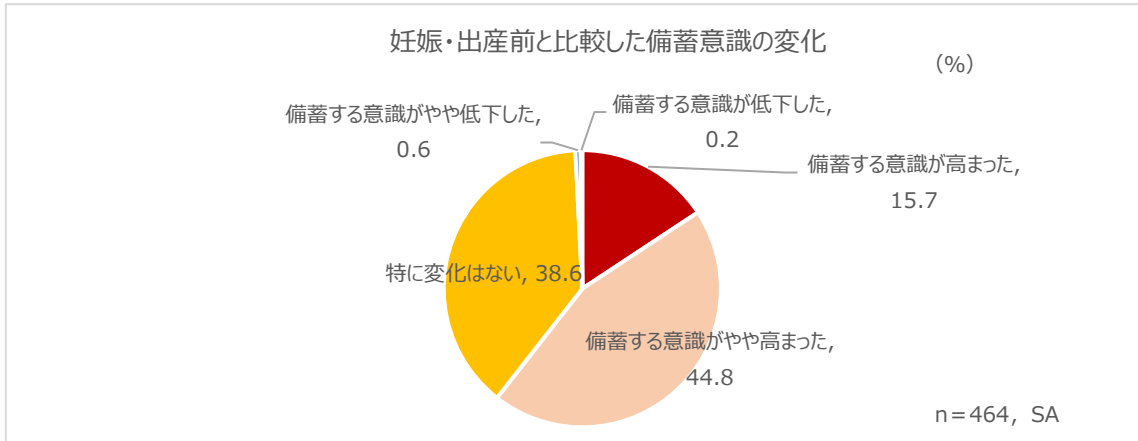
【主な結果】

- ① 妊娠や出産を機に、大規模災害を想定した備蓄に対する意識が「高まった」(15.7%)「やや高まった」(44.8%)との回答が合わせて60.5%に上った。しかしながら、33.1%が具体的なアクションはできていないことが明らかになった。
- ② 自治体の災害対策について、「自宅周辺のハザードマップを見たことがある」人は60.8%、「自宅周辺の緊急避難場所や指定避難所を知っている」人は41.6%だった。一方で、「自宅周辺の乳幼児や妊婦に配慮された避難所の情報を知っている」は3.2%どまりとなり、備蓄状況や母子向け避難所に関する情報を把握できていないことが分かった。
- ③ 液体ミルクの備蓄率は27.2%。そのうち、「日常で使用しながら備蓄している」は13.3%で、前回調査時(2020年7月)の4.2%と比較すると約3倍となった。
- ④ 「フェーズフリー」という言葉の認知度について「全く知らない」(86.6%)という回答が多くを占めているものの、日常時、非日常時共に活用できることを示すと、フェーズフリー認証商品がある商品を「積極的に購入したい」「どちらかというで購入したい」の回答が合わせて65.5%に上った。環境の変化に弱い赤ちゃんにとってフェーズフリーは大きな価値になることが窺える。

【調査結果 概要】

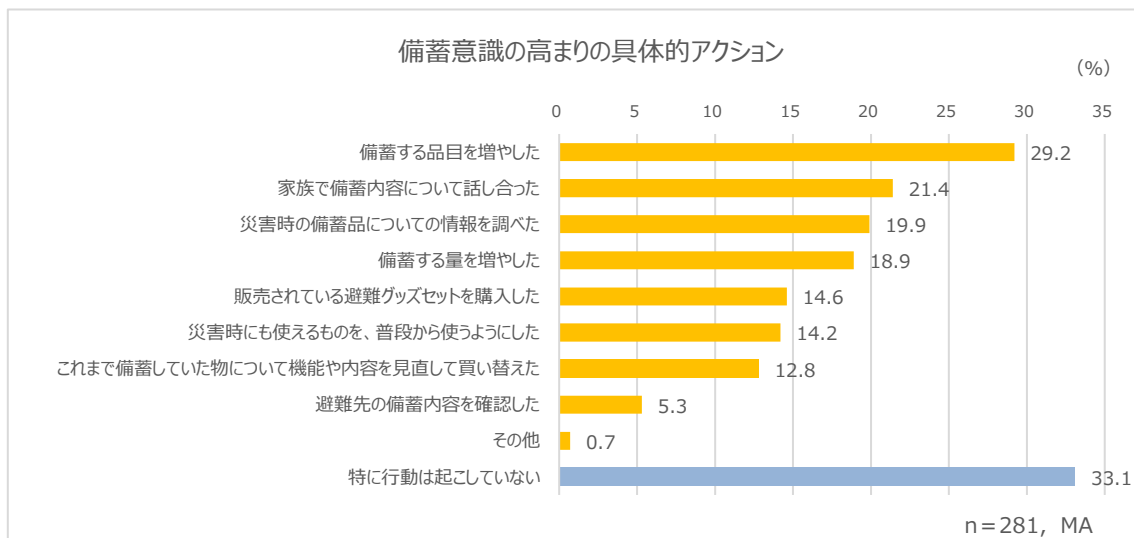
1. 災害に対する意識の変化

赤ちゃんが生まれる（または妊娠する）前と比べて、大規模災害を想定した備蓄に対する意識の変化があったか聞いたところ、60.5%が「高まった」「やや高まった」と回答しました。



備蓄する意識が「高まった」「やや高まった」と回答した 60.5%を対象に、具体的に行った取り組みについて聞いたところ、「備蓄する品目を増やした」(29.2%)、や「家族で備蓄内容について話し合った」(21.4%)という回答が上位に挙がりました。

しかしながら、備蓄に対する意識は上がったものの、「特に行動は起こしていない」という方も 33.1%いることが明らかになりました。

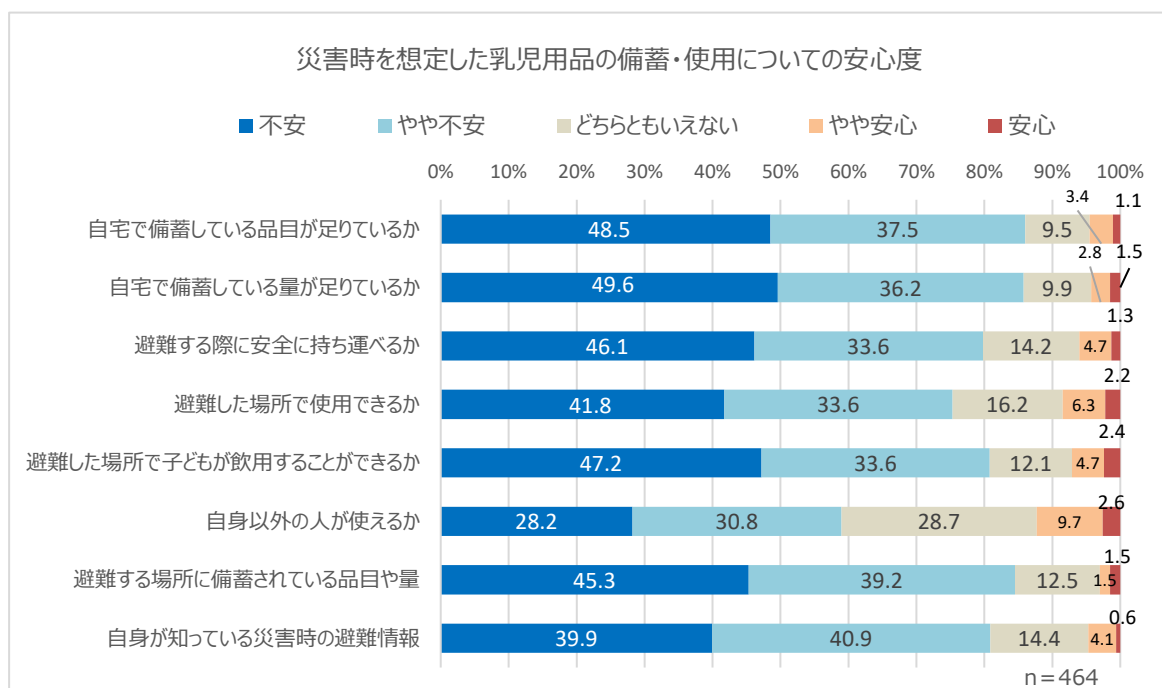


2. 乳幼児ママ・プレママが抱える災害への不安

「災害の備え」、「災害時の授乳」という2つの観点から、赤ちゃん連れでの災害に対する不安について質問しました。

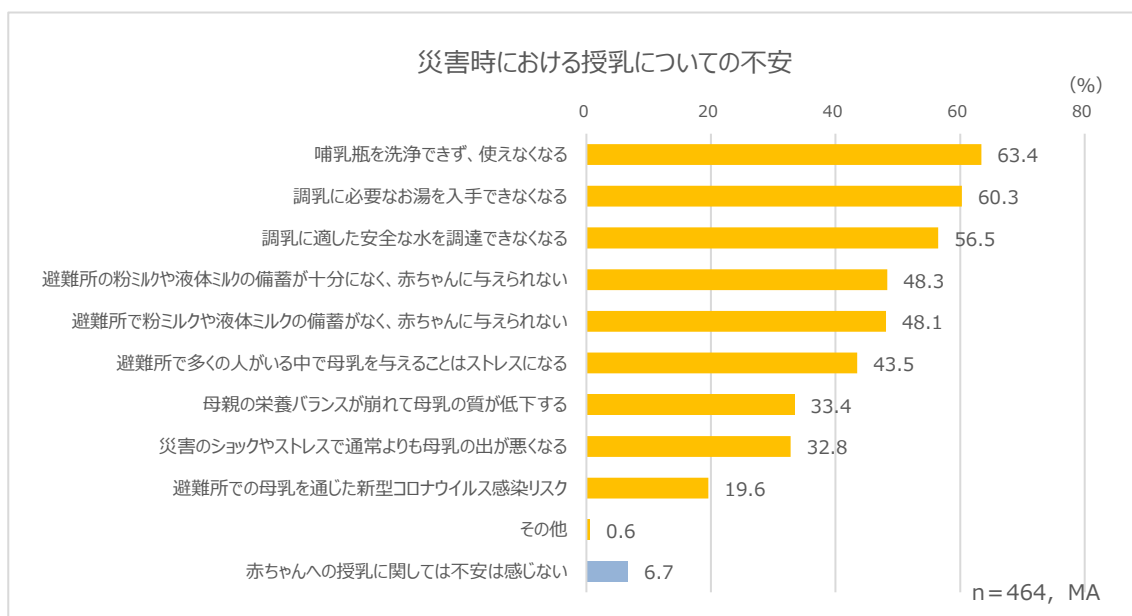
◆災害の備えに対する不安

災害時を想定した乳児用品の備蓄・使用について、どれくらい安心できているかを聞いたところ、いずれの項目でも、乳児用品の備蓄や使用について「安心」「やや安心」と感じているのは多くても10%程度。赤ちゃんのいる家庭の備蓄は不安要素が多いことが分かりました。特に、「自宅で備蓄している品目が足りているか」(86.0%)、「避難した場所で子どもが飲用することができるか」(80.8%)などに多くの不安を感じているようです。



◆災害時の授乳に対する不安

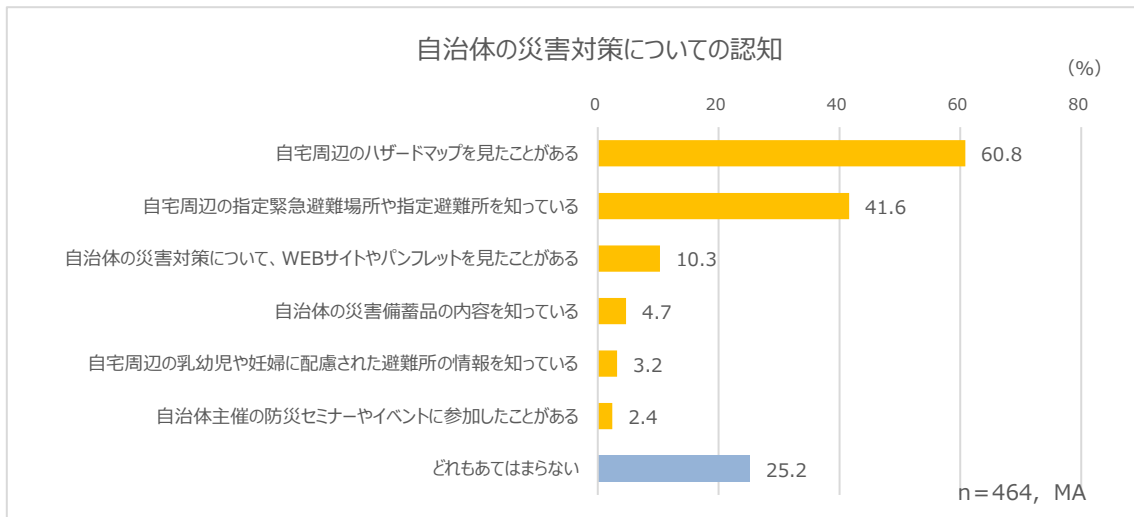
母乳やミルクは、赤ちゃんにとっては大切な栄養源です。災害時での授乳に関する不安点について聞いたところ、「哺乳瓶を洗浄できず、使えなくなる」(63.4%)、「調乳に必要なお湯を入手できなくなる」(60.3%)、「調乳に適した安全な水を調達できなくなる」(56.5%)という意見が多く挙げられました。



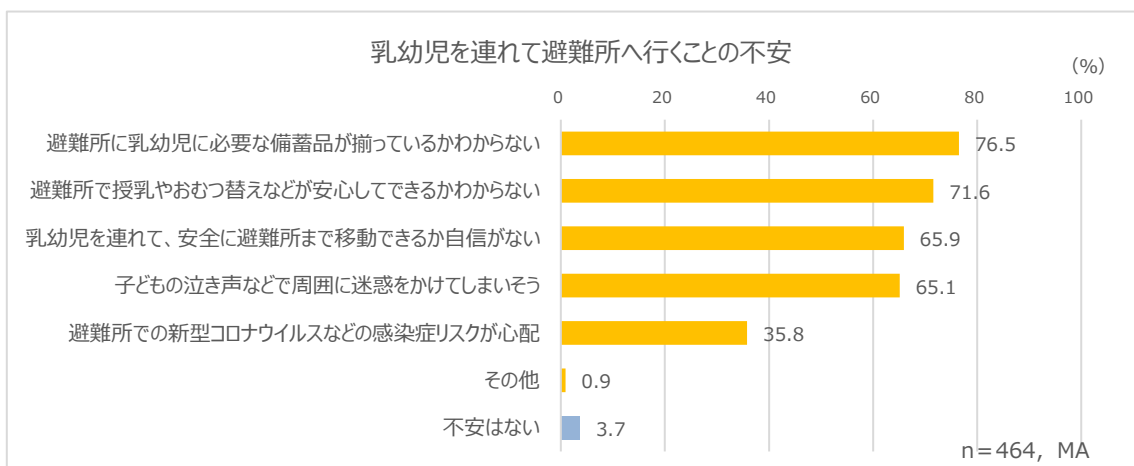
3. 自治体の災害対策について

自治体が発行している災害対策の認知について、60.8%が「自宅周辺のハザードマップを見たことがある」、41.6%が「自宅周辺の緊急避難場所や指定避難所を知っている」と一次避難については比較的情報を得られていることが分かりました。

一方で、「自治体の災害備蓄品の内容を知っている」（4.7%）、「自宅周辺の乳幼児や妊婦に配慮された避難所の情報を知っている」（3.2%）は低く、備蓄品の内容や母子向け避難所に関する情報はあまり把握できていないことが明らかになりました。



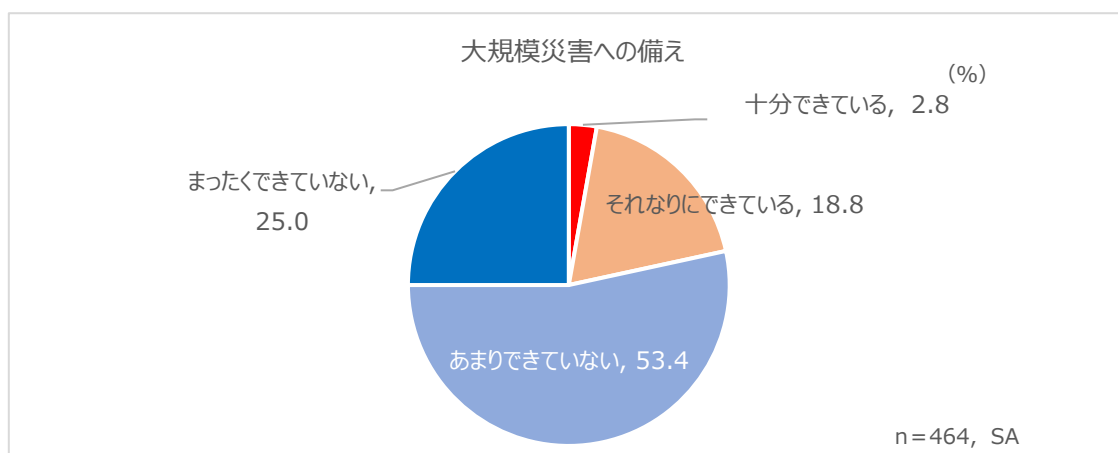
また、赤ちゃんを連れて、指定緊急避難場所や指定避難所に行くことへの不安については、「避難所に乳幼児に必要な備蓄品が揃っていないかわからない」（76.5%）、「避難所で授乳やおむつ替えなどが安心してできるかわからない」（71.6%）などの項目で多くのママ・プレママが不安を抱えていることが分かりました。自治体が発行している災害対策についてしっかり把握できていないことが、避難所へ行くことへの不安要素にもつながっているのかもしれません。



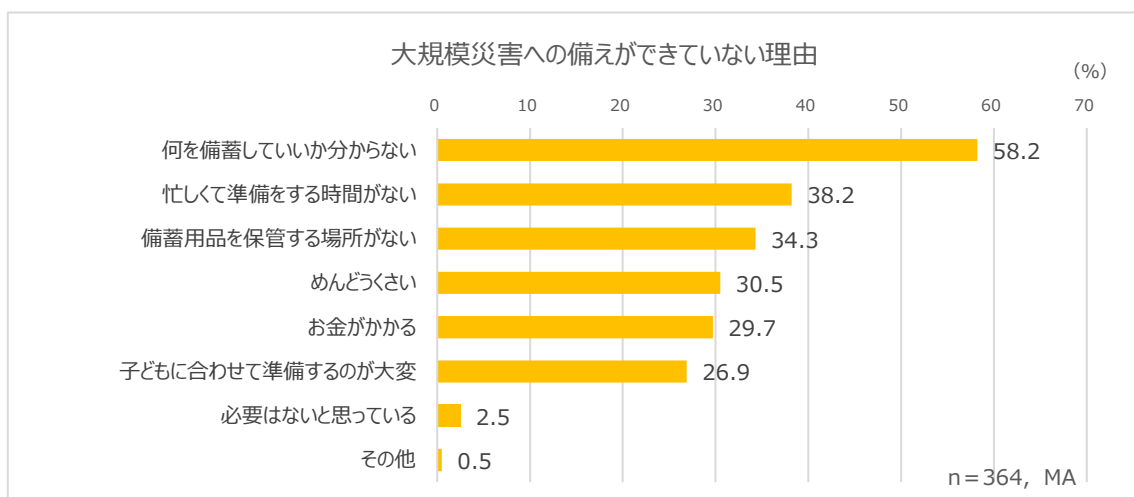
4. 日用品、乳児用品の備蓄の実態と状況

◆備蓄の実態と理由

地震や大雨や台風などによる水害や、土砂崩れなどによる大規模災害を想定した準備・対策を行っているか聞いたところ、「十分できている」「それなりに出来ている」と回答する人は合わせて21.6%にとどまり、約8割の乳幼児ママ・プレママが、災害対策が出来ていないと感じていることが明らかになりました。

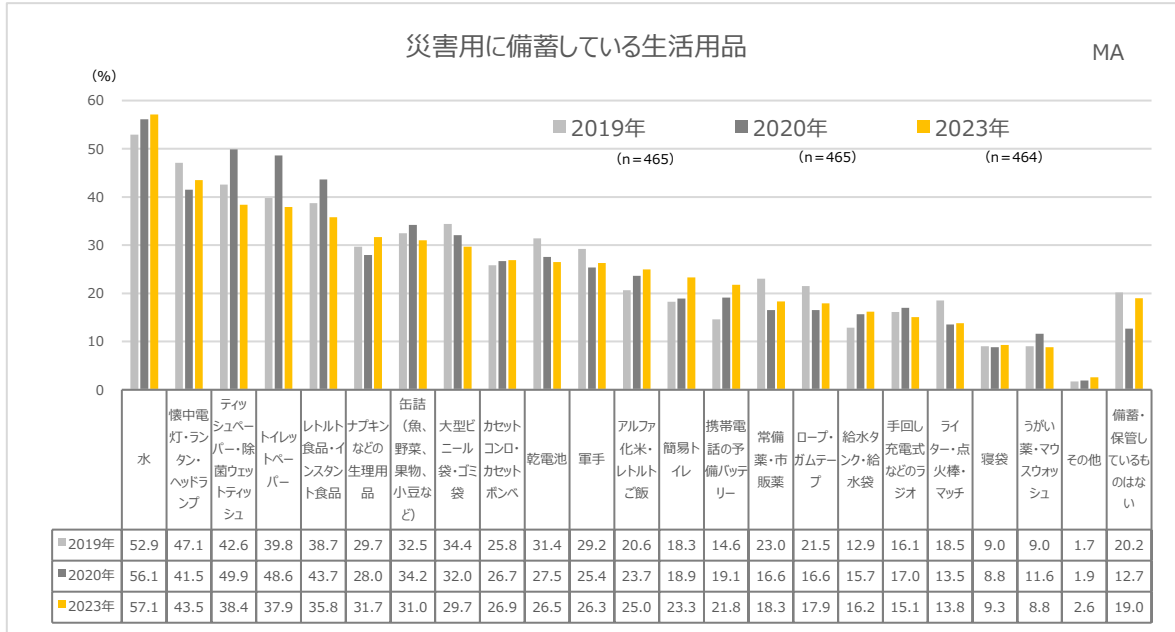


大規模災害への備えが「あまりできていない」「まったくできていない」と回答した人に、その理由を聞いたところ「何を備蓄していいかわからない」(58.2%)、「備蓄用品を保管する場所がない」(34.3%)などの声が挙がりました。



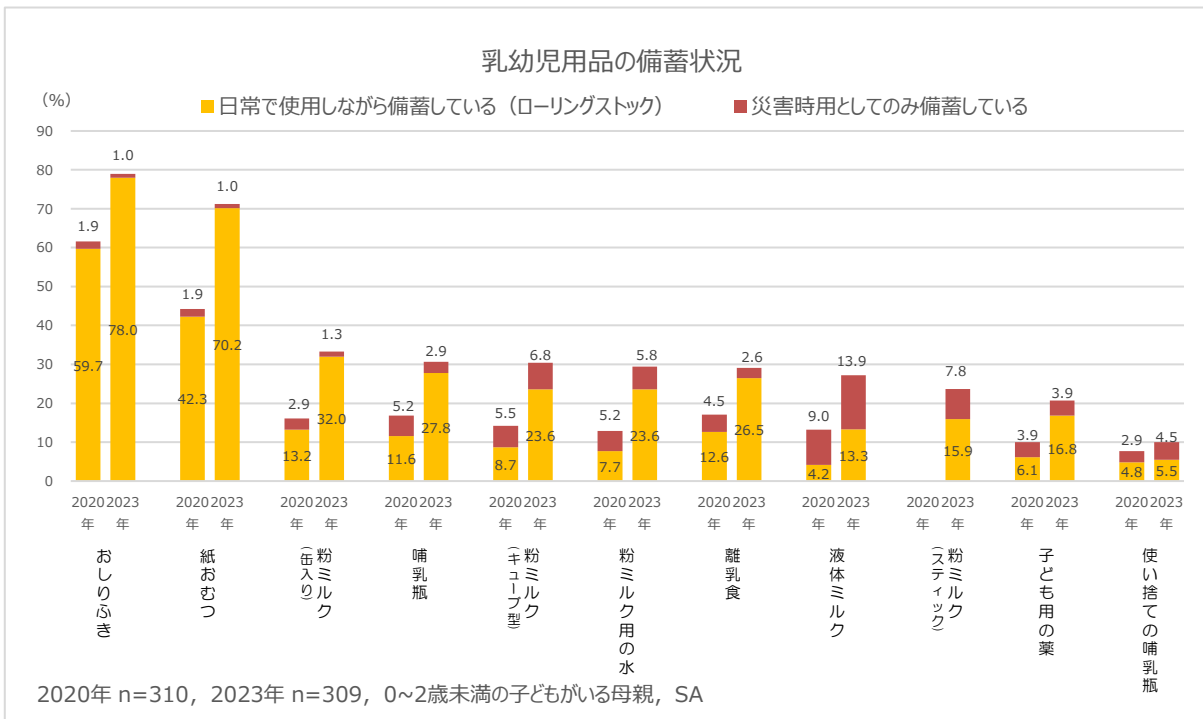
◆日用品の備蓄状況

災害時の対策を意識した日用品の備蓄状況について、新型コロナウイルスの感染拡大中だった2020年度調査では、当時品薄状態になったティッシュペーパー・除菌ウェットティッシュの備蓄率が高まっていました。今回はこれらの項目についてはやや落ち着いているようです。



◆乳幼児用品の備蓄状況

乳幼児用品の備蓄状況について、本年度の調査では2020年度調査と比べて全体的に備蓄率がアップしています。特におしりふきや紙おむつ、赤ちゃんの栄養源となる粉ミルク、粉ミルク用の水、液体ミルクの備蓄率が上がっています。また、備蓄されている品目のほとんどが日常で使用しながら備蓄する「ローリングストック」によって備蓄されていることが分かりました。



また、各家庭での備蓄の工夫について聞いたところ、以下のような回答がありました。

各家庭での備蓄の工夫

- 備蓄品はリュックに一部を入れて持ち出せるようにしている。残りは押し入れに入れて保存。レトルトなど 1 年以内に賞味期限が切れるものはキッチンでローリングストックをしていて、期限が近いものから食べるようにしている。
- オムツ、離乳食などサイズや月齢の関わる物は見直すようにしている。
- ウォーターサーバーを契約し、12Lの水が必ず 1-2 本ある状態にしている。
- 普段のご飯に使えるものをいつもより多めにストックするようにしている。
- リビングの出しやすいところに置いていて、賞味期限など確認する日を決めている。
- 飲料水やレトルト食品は普段から食べたり飲んだりして、賞味期限が切れないように工夫している。



目につく、取り出しやすい場所に保管



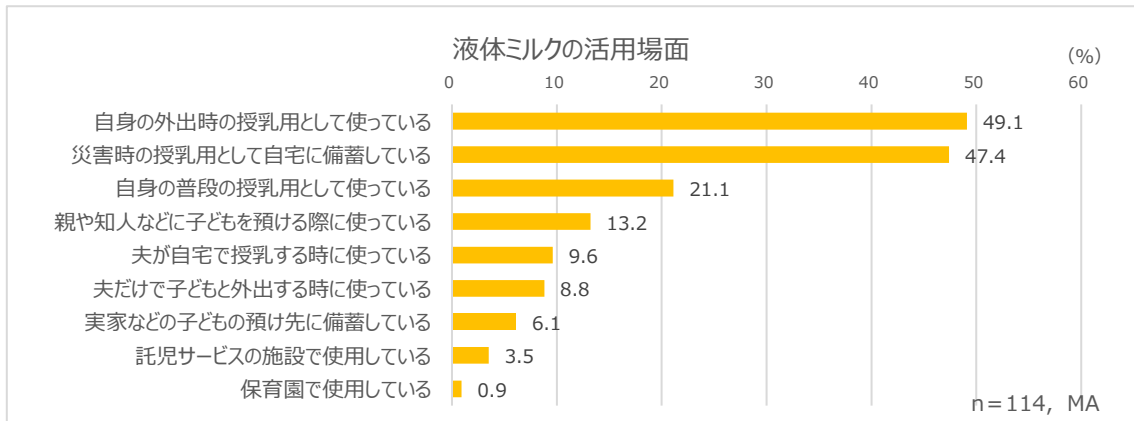
定期的にサイズを確認

5. 液体ミルクについて

◆液体ミルクの使用場面

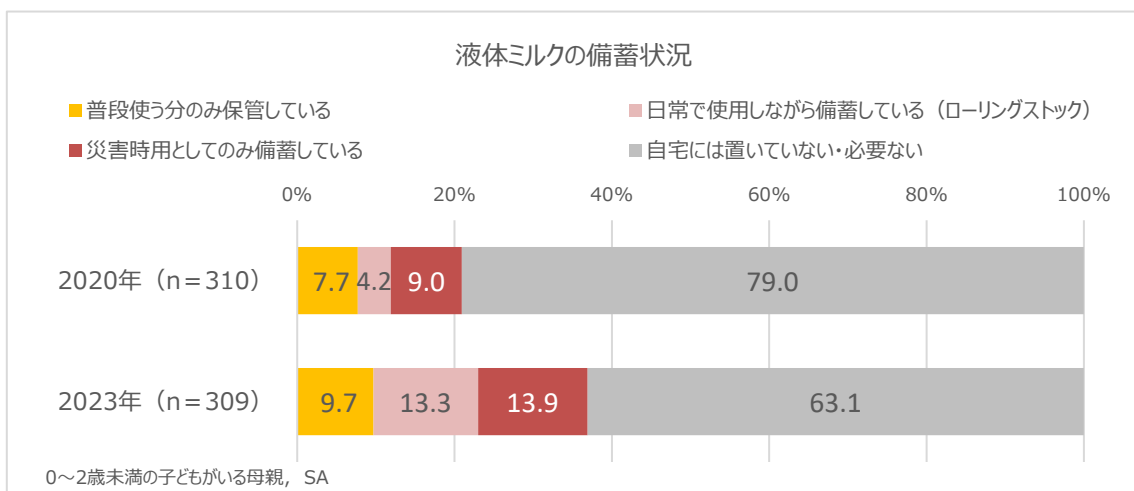
液体ミルクの購入経験がある方（全体の26.3%）を対象に、実際に液体ミルクを活用している場面を聞きました。多く回答が寄せられたのは「自身の外出時の授乳用として使っている」（49.1%）、「災害時の授乳用として自宅に備蓄している」（47.4%）です。

調乳不要な液体ミルクは、衛生的な水が手に入りにくい災害時に役立つだけでなく、外出時などに日常使いする人も多いことが明らかになりました。



◆液体ミルクの備蓄状況

先述の通り乳幼児用品の備蓄は、その多くが日常で使いながら備蓄されています。液体ミルクは「日常で使用しながら備蓄している」（13.3%）と「災害時用としてのみ備蓄している」（13.9%）をあわせた備蓄率が27.2%で、前回調査時（2020年7月）よりも14%増加しました。中でも「日常で使用しながら備蓄している」は前回調査時（2020年7月）の4.2%と比較すると約3倍となっていることが分かりました。

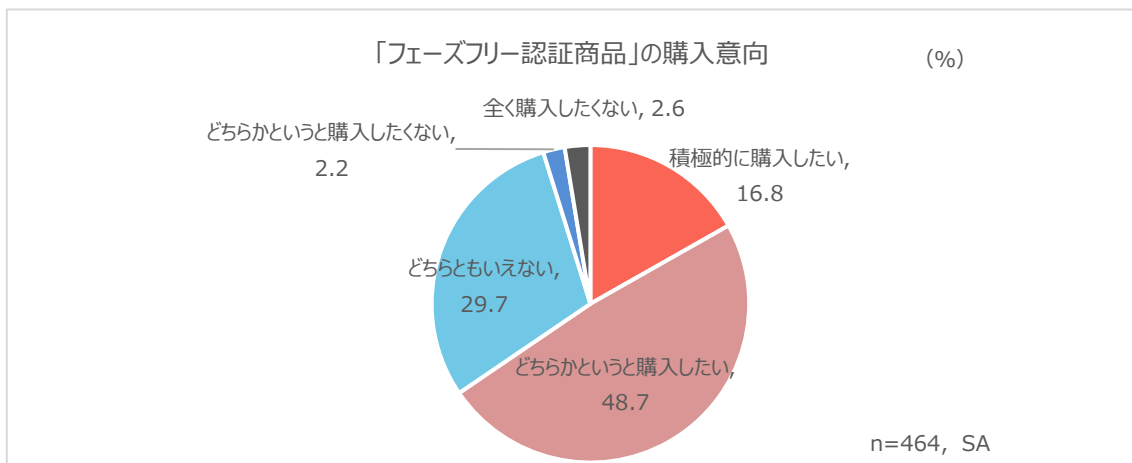
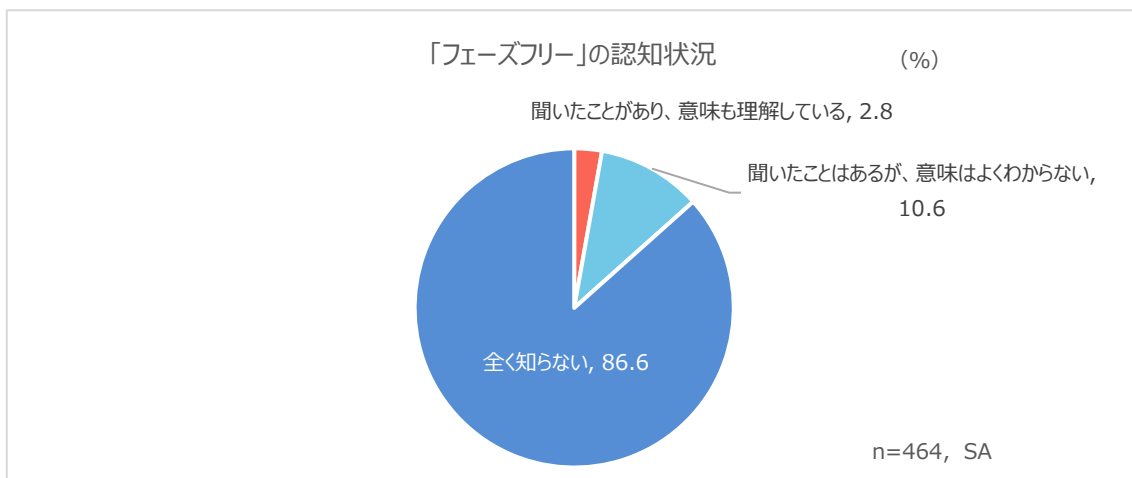


6. 防災の新しい概念「フェーズフリー」

「フェーズフリー」とは、日常時と非日常時というフェーズ（時期、状態）の壁を取り払いフリーにする、という新しい概念です。日常時から、非日常時にも使えるようなモノやサービスを選んで活用していくことで、非常時でも日常時の生活の質を保つことができます。

フェーズフリーという言葉について知っているかを聞いたところ、8割以上が「全く知らない」と回答したものの、フェーズフリーの解説を確認後に、フェーズフリー認証商品[※]を「積極的に購入したい」「どちらかという購入したい」を合わせた回答は65.5%でした。

環境の変化に弱い赤ちゃんにとっては、災害時にも使い慣れているものを活用できるため、フェーズフリーは大きな価値になると考えられます。



※「フェーズフリー認証商品」とは、一般社団法人フェーズフリー協会が、商品やサービスの日常時および非常時の価値を審査し、日常時および非常時の価値を共に有していることを証明された商品のことです。

以上